

# 富山県における 湛水直播栽培の現状と課題



カルパー



鉄コーティング



リゾケア

富山県農業技術課広域普及指導センター  
所長 野村幹雄

# 本日の内容

- 1 富山県における直播栽培の現状
- 2 湛水直播栽培の普及拡大に向けた  
これまでの取組み
- 3 今後の取組方向

# 1 富山県における直播栽培の現状

直播面積 R7 : 3,360ha (水稻面積の約9%)  
近年は3,000ha強で推移

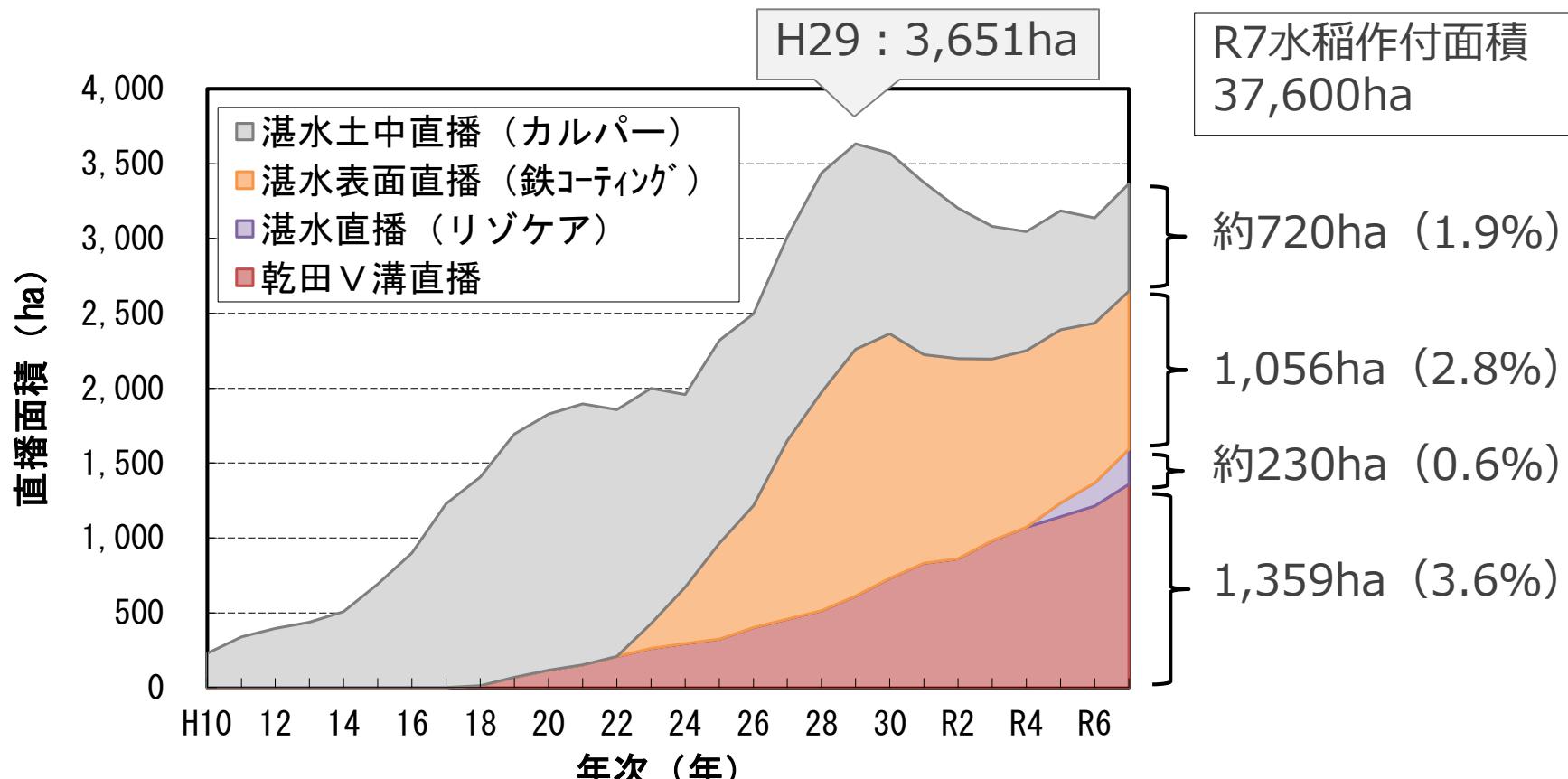


図 直播栽培面積の推移

# 1 富山県における直播栽培の現状

湛水直播面積 R7 : 約2,000ha (水稻の約5%)  
H29 (3,026ha) をピークに減少していたが、  
近年は横ばい

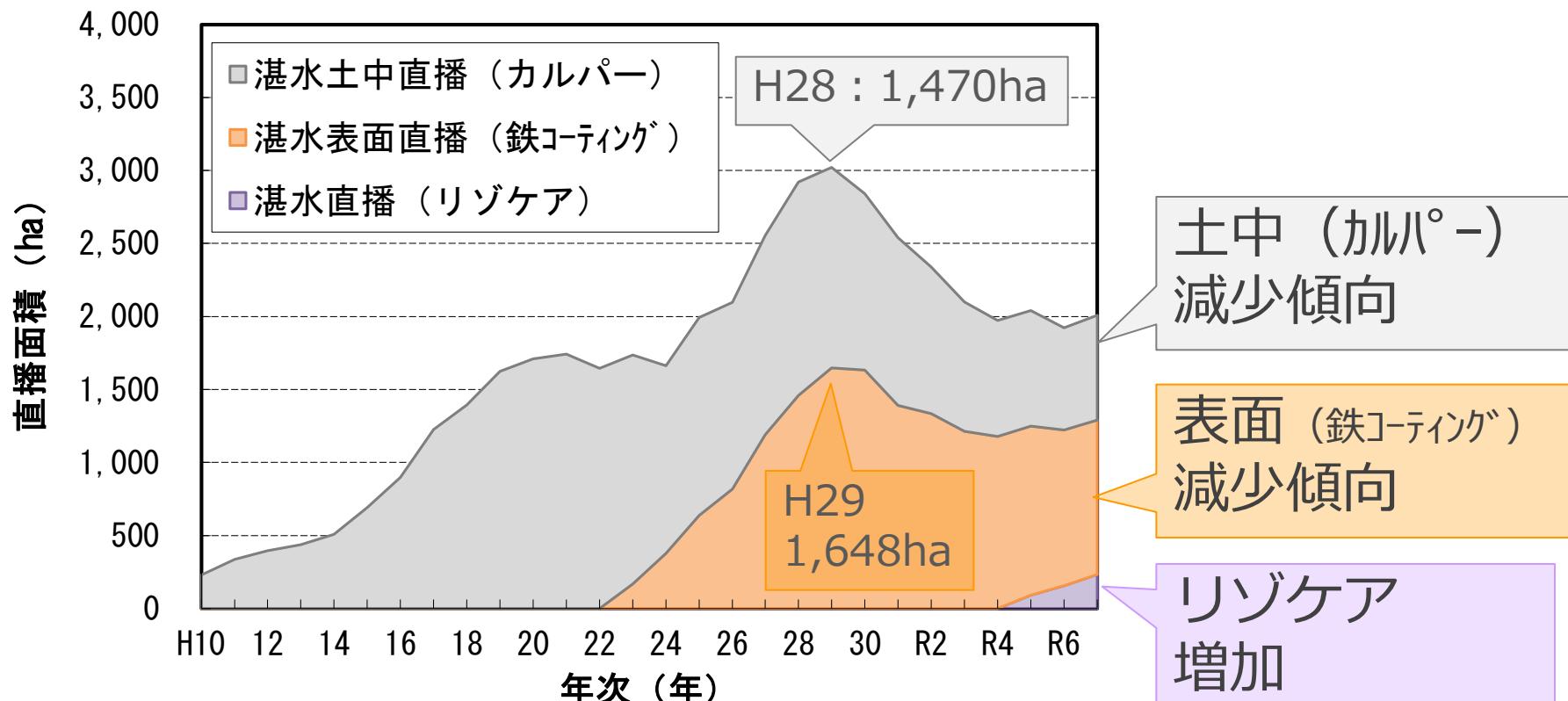


図 湛水直播栽培面積の推移

# 本日の内容

- 1 富山県における直播栽培の現状
- 2 湛水直播栽培の普及拡大に向けた  
これまでの取組み
- 3 今後の取組方向

## 2 普及拡大に向けたこれまでの取組み

### 富山型直播：「コシヒカリ」を栽培

- 省力栽培でも、高品質・良食味品種を  
R7直播面積の約70%が「コシヒカリ」
- 作期分散で「コシヒカリ」の作付けを拡大

移植：5/15 → 成熟期：9/12

播種：5/5～10 → 成熟期：9/19～22

→ 大面積で「コシヒカリ」の作付が可能 → 収益向上

- 出穂後の高温を回避し、品質維持

播種：5/5～10

→ 出穂期：8/10～13

基白粒



背白粒



心白粒



## 2 普及拡大に向けたこれまでの取組み

富山型直播 「コシヒカリ」を栽培

課題は、倒伏の回避、苗立ち安定化、  
収量確保、雑草防除など

生産者、JA、県（行政・研究・普及）が、  
協力して、普及拡大を進める。

## 2 普及拡大に向けたこれまでの取組み

### <研究>

- ・倒伏防止 (基肥窒素量、播種量、適正生育量)
- ・播種様式 (表面散播 → 土中条播・点播)
- ・栽培技術 (肥効調節型肥料、初期病害虫)
- ・苗立向上 (落水出芽法、加温処理、播種時の土壤硬度)
- ・雑草防除 (効果、薬害、防除体系)

### <普及>

- ・展示ほ、調査ほの設置 (平成1桁代～)

## 2 普及拡大に向けたこれまでの取組み

### ＜生産現場＞

- ・**コーティング種子の供給**

煩雑なコーティング作業を一括処理・供給

【カルパーコーティング直播】

JAでコーティング（加温処理も実施）

→近年、コーティング種子供給中止が直播減少の一因

【鉄コーティング直播】

委託を受けた営農組織でコーティング

- ・**農閑期のコーティング作業**

鉄コーティング種子では長期保存が可能

→作業分散が可能

# 本日の内容

- 1 富山県における直播栽培の現状
- 2 湛水直播栽培の普及拡大に向けた  
これまでの取組み
- 3 今後の取組方向

### 3 今後の取組方向

◎直播栽培は、省力的栽培技術として、  
今後も推進（目標：4,000ha）

- ・経営規模の拡大、労働力不足により、  
必要な苗の確保が困難（密苗でも）

【事例 1】県東部・生産法人（76haうち水稻63ha）

種子生産は移植、主食用米はすべてカルバ直播

6ha

57ha

【事例 2】県西部・営農組合（50haうち水稻30ha）

早生（酒米）は移植、それ以外は鉄コーティング直播

15ha

15ha

### 3 今後の取組方向 (品種)

#### ◎ 高温耐性品種での直播を推進

- ・ 近年、直播の生育ステージが早期化  
→ 高温登熟回避の効果が得られにくく
- ・ 現在、高温耐性品種の作付拡大を推進  
今後、直播栽培においても、  
高温に強く、耐倒伏性も高い

「富富富」を推進



### 3 今後の取組方向 (播種・栽培方法)

◎播種様式は特定せず、推進する。

【生産現場の状況】

#### ①播種機の更新時期

直播の意向調査 (R1頃実施)

湛水直播では播種機の更新まで継続

→ **機械更新のタイミング**で湛水直播を中止か

#### ②基盤整備によるほ場の大区画化

1 ha以上のほ場が増加

→ **作業効率が高い乾田直播**が適している

※砂壌土地帯が多く減水深を抑えるため、秋代かき必要

### 3 今後の取組方向 (播種・栽培方法)

◎湛水直播の拡大には種子供給が重要

【生産現場の状況】

①コーティング作業の中止

生産者、JAともに労働力不足のため、  
カルパー、鉄コーティング作業や供給が困難  
→ 湛水直播を断念する事例も

②リゾケア直播の拡大

コーティング種子を農薬メーカーが供給  
(一部のJAで推進)

従来の播種機、ドローンで播種が可能

### 3 今後の取組方向 (中山間地)

◎中山間地での水稻栽培は湛水直播（？）

【生産現場の状況】

①労働力不足に対応し、省力化が必要

【事例 3】県西部の中山間地

人手不足で育苗作業が困難、直播で解消

②地理的に不利な地域での作付け

大区画ほ場への基盤整備が困難（乾田▲）

不整形、地が深いほ場が多い（乗用播種機▲）

→ ドローンによる播種が有望か

### 3 今後の取組方向 (ドローン播種の課題)

#### ＜ドローンによる播種の課題＞

##### 【慣行の湛水直播】

- ・播種同時の施肥 (肥効調節型肥料による側条施肥) と、除草剤散布 (湛水表面播種) が普及  
→ 省力化技術が普及、生育も均一

##### 【ドローン播種】

- ①播種、施肥、除草剤散布を別々に作業
- ②播種・施肥むらによる生育のばらつき
- ③表面散播による倒伏  
→ 開発された技術の現場試験での確認  
(生産者、メーカー、JA、県が連携、協力)

### 3 今後の取組方向

「水稻生産の安定的な継続」や  
「水田の多面的機能の維持」に向けて、  
省力的な栽培技術「直播」を推進

